

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3645746号

(P3645746)

(45) 発行日 平成17年5月11日(2005.5.11)

(24) 登録日 平成17年2月10日(2005.2.10)

(51) Int. Cl.⁷

F I

H 0 4 L 12/44

H 0 4 L 12/44

B

H 0 4 L 12/56

H 0 4 L 12/56

A

請求項の数 7 (全 9 頁)

| | | | |
|-----------|------------------------------|-----------|-------------------------|
| (21) 出願番号 | 特願平11-171240 | (73) 特許権者 | 000004237 |
| (22) 出願日 | 平成11年6月17日(1999.6.17) | | 日本電気株式会社 |
| (65) 公開番号 | 特開2000-358041(P2000-358041A) | | 東京都港区芝五丁目7番1号 |
| (43) 公開日 | 平成12年12月26日(2000.12.26) | (74) 代理人 | 100109313 |
| 審査請求日 | 平成12年5月25日(2000.5.25) | | 弁理士 机 昌彦 |
| 審査番号 | 不服2002-17893(P2002-17893/J1) | (74) 代理人 | 100111637 |
| 審査請求日 | 平成14年9月17日(2002.9.17) | | 弁理士 谷澤 靖久 |
| | | (74) 代理人 | 100085268 |
| | | | 弁理士 河合 信明 |
| | | (72) 発明者 | 中石 浩志 |
| | | | 東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内 |

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 光通信網における上り帯域の動的帯域制御システム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の加入者端末をスター・カブラを介して局装置に接続した光通信網において前記加入者端末から前記局装置に向かう上り方向の上り帯域を動的に制御する動的帯域制御システムであって、

前記加入者端末は、バッファ内の伝送すべきデータの容量が所定の閾値以上となる場合には閾値超過警報を、前記バッファ内の伝送すべきデータの容量がゼロとなる場合には空警報を、それぞれ前記局装置に送出し、

前記局装置は、前記閾値を制御する閾値制御信号を前記加入者端末に送出し、

前記閾値超過警報、空警報、及び前記閾値制御信号とに基づいて、前記局装置は、上り帯域に割り当てる最大セル数、平均セル数、及び最小セル数を変更し、加入者端末に指示することを特徴とする動的帯域制御システム。

【請求項2】

前記局装置は、前記局装置の上位にある制御端末の指示に基づいて、前記最大セル数、平均セル数、及び最小セル数を初期設定することを特徴とする請求項1記載の動的帯域制御システム。

【請求項3】

前記局装置は、前記局装置の上位にある制御端末の指示に基づいて、前記最大セル数、平均セル数、及び最小セル数を変更設定する場合には、前記上り帯域に割り当てる最大セル数、平均セル数、及び最小セル数の変更を中止することを特徴とする請求項1記載の動

10

20

的帯域制御システム。

【請求項 4】

前記局装置は、前記閾値超過警報及び前記空警報を受信する毎にこれらを前記加入者端末毎に記憶し、前回及び今回の前記受信の結果を比較して、前記上り帯域に割り当てる最大セル数、平均セル数、及び最小セル数を変更することを特徴とする請求項 1 記載の動的帯域制御システム。

【請求項 5】

前記局装置は、前記加入者端末全部での未使用セル数の合計と、前記加入者端末の一つからの前記閾値超過警報とに基づいて前記上り帯域に割り当てる最大セル数を変更することを特徴とする請求項 1 記載の動的帯域制御システム。

10

【請求項 6】

前記局装置は、空警報を受信した場合には、前記上り帯域に割り当てる最大セル数を減少させることを特徴とする請求項 1 記載の動的帯域制御システム。

【請求項 7】

前記閾値を前記平均セル数に変更させる前記閾値制御信号が送出された後、前記閾値超過警報が送出されない場合には、前記局装置は、前記上り帯域に割り当てる最大セル数を減少させることを特徴とする請求項 1 記載の動的帯域制御システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】

20

本発明は、Passive Optical Network や Passive Double Star 等の光通信網における上り帯域の動的帯域制御システムに関し、特に、複数の加入者端末をスターカップラを介して局装置に収容し、局装置に動的セル割当部を設けるとともに、加入者端末にバッファ閾値制御・監視部を設け、バッファ閾値制御・監視部からの警報に基づいて、上り方向の帯域を動的に割り当てる動的帯域制御システムに関する。

【0002】

【従来技術】

従来、複数の加入者端末を一つの局装置で束ねる受動光通信網 (PON: Passive Optical Network) の上り方向の帯域は、局装置の上位にある制御端末からの指示により固定的に割り当てられていた。しかし、近年ITU-T 勧告G.983: "High Speed optical access systems based on Passive Optical Network (PON) techniques" (February 1998) の Divided_slots の項には、動的にセル割当ができるように上り方向に帯域変更要求用の OAM (Operation And Maintenance) セルを準備している。

30

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、上述したITU-T 勧告には、動的セル割当方法は具体的に規定されていない。そこで、本発明は、PON の上り方向の帯域を動的に変更できるシステムを実現することを課題としている。

40

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するための本発明は、複数の加入者端末をスター・カップラを介して局装置に接続した光通信網において前記加入者端末から前記局装置に向かう上り方向の上り帯域を動的に制御する動的帯域制御システムであって、前記加入者端末は、バッファ内の伝送すべきデータの容量が所定の閾値以上となる場合には、閾値超過警報を、前記バッファ内の伝送すべきデータの容量がゼロとなる場合には、空警報を、それぞれ前記局装置に送出し、前記局装置は、前記閾値を制御する閾値制御信号を前記加入者端末に送出し、前記閾値超過警報、空警報、及び前記閾値制御信号とに基づいて、前記局装置は、上り帯域に

50

割り当てる最大セル数、平均セル数、及び最小セル数を変更し、加入者端末に指示する。

【0005】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。図1は、本発明の受動光通信網(PON)における上り帯域の動的帯域制御システムのブロック図である。図1に示すように、本発明の動的帯域制御システムは、局装置OLT1に加入者端末ONT21, 22, 23がスターカップラ3を介して接続されている。

【0006】

このシステムは、一芯双方向通信システムであり、下り方向においては時分割多重(TDM)通信を用い、上り方向においては時分割多元接続通信を用いる。

10

【0007】

更に、局装置OLT1は、加入者端末ONT21, 22, 23と局装置OLT1間の制御を行う加入者局間制御部OLT・PON・ONT4と、この加入者局間制御部4を介して加入者端末21, 22, 23との間でメッセージを送受信するメッセージ送受信部5と、バッファ閾値制御メッセージをメッセージ送受信部5に出力する動的セル割当部6と、周期的にセル割当指示を加入者局間制御部4に出力するセル割当部7とを備えている。

【0008】

そして、この局装置OLT1は、制御装置31によって制御される。

【0009】

更に、加入者端末ONT21, 22, 23は、局装置OLT1との間の制御を行う加入者端末網制御部ONT・PON・CONT8と、この加入者端末網制御部8を介して局装置OLT1との間でメッセージを送受信するONTメッセージ送受信部9と、ATMセルの容量が所定の閾値を越えた場合に閾値超過警報を出力するか又は空(エンブティ)状態で空(エンブティ)警報を出力するバッファ11と、メッセージ中のバッファ閾値制御信号を入力してバッファ11の閾値を変更するとともにバッファ11からの閾値超過警報とエンブティ警報を入力してONTメッセージ送受信部9に出力するバッファ閾値制御・監視部10とを備えている。

20

【0010】

局装置OLT1の動的セル割当部6は、制御端末31が予め設定する個々の加入者端末ONT21, 22, 23に関する帯域設定パラメータであるPCR(peak cell rate: ATM(非同期転送モード)でのセル転送速度の最大値), ACR(average cell rate), MCR(minimum cell rate)に対応するセル割当周期毎のセル数である最大割当セル数と平均割当セル数と最小割当セル数を求める。

30

【0011】

更に、加入者端末ONT21, 22, 23のセル割当位置をセル割当周期の1/Nであるフレームパルス単位で求める。

【0012】

本発明の動的帯域割当システムにおいては、この最大割当セル数、平均割当セル数、最小割当セル数の3段階の帯域の変更を行う。帯域を変更する第1の場合は、加入者端末ONT21, 22, 23からフレームパルス毎に発出される閾値超過警報を、局装置OLT1内の動的セル割当部6にて検出し、前回検出した閾値超過警報またはエンブティ警報と比較してセル数を増加する場合である。又、第2の場合は、増加分のセル数が全加入者端末ONTでの現在の未使用セル数よりも少ないことを判定した場合である。又、第3の場合は、エンブティ警報を前回は検出していないが今回は検出している場合である。又、第4の場合は、閾値超過警報を検出しない状態で動的セル割当部6からバッファ11の閾値をACRに相当する値に変更するという内容の閾値制御信号を発出したが、その直後に閾値超過警報を検出しない場合である。これら4つの場合には、加入者端末ONT21, 22, 23から局装置OLT1へ向かう方向、すなわち上り方向のセル流の帯域を変更する要求があった加入者端末ONT21, 22, 23毎にその使用する上り帯域を動的に変更す

40

50

る。

【 0 0 1 3 】

図 2 は、動的セル割当部 6 のブロック図である。帯域命令受信部 1 0 1 は、制御端末 3 1 からの加入者端末 O N T 2 1 , 2 2 , 2 3 のための帯域設定パラメータである最大割当セル数 (P C R) , 平均割当セル数 (A C R) , 最小割当セル数 (M C R) を入力する。そして、これらのパラメータをセル割当位置計算部 1 0 2 に出力する。更に、帯域設定パラメータ変更指示をバッファ閾値制御部 1 0 9 に出力する。

【 0 0 1 4 】

セル割当位置計算部 1 0 2 は、加入者端末 O N T 2 1 , 2 2 , 2 3 毎にそれぞれの帯域設定パラメータに対応するセル割当を予め決めているセル割当周期の 1 / N であるフレームパルス単位毎に求めて、その結果を第 1 メモリ 1 0 3 に出力するとともに、計算結果完了信号を全 O N T セル割当位置計算部 1 0 4 に出力する。

10

【 0 0 1 5 】

全 O N T セル割当位置計算部 1 0 4 は、フレームパルスを入力してセル割当周期パルスを生成して現在使用フレームのサーチ部 1 0 6 に出力する。

【 0 0 1 6 】

更に、全 O N T セル割当位置計算部 1 0 4 は、セル割当位置計算部 1 0 2 からの計算結果完了信号をトリガとして、O N T 毎に第 1 メモリ 1 0 3 に格納されている A C R に対応するセル割当位置情報を全て読み出す。そして、全 O N T に割り当るセル割当位置を計算して第 2 メモリ 1 0 5 または第 3 メモリ 1 1 3 に交互に書き込むとともに、計算完了信号を出力する。

20

【 0 0 1 7 】

又は、全 O N T セル割当位置計算部 1 0 4 は、セル割当変更指示部 1 1 1 からの P C R , A C R , M C R のどれかを指示する帯域指定指示をトリガとして、O N T 毎に第 1 メモリ 1 0 3 に格納されている 3 種類のセル割当位置情報から対応するセル割当位置情報を全て読み出す。そして、全 O N T に割当るセル割当位置を計算して第 2 メモリ 1 0 5 または第 3 メモリ 1 1 3 に交互に書き込むとともに、計算完了信号とセル割当周期中のどのフレームからセル割当変更を行うかを示す割当変更位置信号を、現在使用フレームサーチ部 1 0 6 からの出力を基にして生成し出力するか、または入力したフレームパルスを基にしてセル割当周期パルスを生成しているが一つ過去のセル割当周期間にセル割当位置計算部 1 0 2 からの計算結果完了信号の入力が無かつセル割当変更指示部 1 1 1 からの P C R , A C R , M C R のどれかを指示する帯域指定指示の入力が無い場合は現在使用中のセル割当周期間に使用している全 O N T に割当たセル割当位置データが書かれている第 2 メモリ 1 0 5 または第 3 メモリ 1 1 3 を選択するための選択制御信号を S E L 1 1 2 に出力し、セル割当周期中にある空きセル数の合計値を計算して空きセル数保持部 1 0 7 に出力する。

30

【 0 0 1 8 】

セクタ S E L 1 1 2 は、全 O N T セル割当位置計算部 1 0 4 からの選択制御信号に基づいて、第 2 メモリ 1 0 5 又は第 3 メモリ 1 1 3 のデータを選択する。

【 0 0 1 9 】

現在使用フレームサーチ部 1 0 6 は、フレームパルスとセル割当周期パルスを入力して、現在使用中のフレームがセル割当周期のなかのどのフレームであるかを全 O N T セル割当位置計算部 1 0 4 に出力する。

40

【 0 0 2 0 】

空きセル数保持部 1 0 7 は、全 O N T セル割当位置計算部 1 0 4 からのセル割当周期中にある空きセル数の合計値を入力してバッファ閾値制御部 1 0 9 に出力する。

【 0 0 2 1 】

バッファ閾値検出部 1 0 8 は、メッセージ送受信部 5 からメッセージを入力して、閾値超過警報とエンプティ警報を検出してバッファ閾値制御部 1 0 9 に出力する。

【 0 0 2 2 】

バッファ閾値制御部 1 0 9 は、バッファ閾値検出部 1 0 8 からの閾値超過警報とエンプテ

50

ィ警報を入力して、前回に入力したこれらの値を前回値保持部 110 から読み出して比較する。更に、セル数を増加する方向でかつ増加分のセル数が全 ONT での現在の未使用セル数よりも少ないことを判定した場合には、セル割当変更指示部 111 に ACR または PCR に変更する帯域指定指示を変更のある ONT 分出力する。又は、エンブティ警報を前回は検出していないが今回は検出している場合には、セル割当変更指示部 111 に MCR に変更する帯域指定指示を変更のある ONT 分出力する。又は、閾値超過警報とエンブティ警報を検出しない場合であって、バッファ 11 のフル閾値を ACR に相当する値に変更するという内容のバッファ閾値制御信号をメッセージ送受信部 5 に発出したが、その直後のフレームで閾値超過警報を検出しない場合には、セル割当変更指示部 111 に ACR に変更する帯域指定指示を変更のある ONT 分出力し、今回検出した閾値超過警報またはエンブティ警報または警報なしの情報を前回値保持部 110 に出力する。又は、帯域命令受信部 101 からの帯域設定パラメータ変更指示を入力した場合には、セル割当変更指示部 111 に対する出力を禁止する。

10

【0023】

前回値保持部 110 は、バッファ閾値制御部 109 ヘデータを出力するとともに、バッファ閾値制御部 109 からのデータを入力して次の入力まで保持する。

【0024】

セル割当変更指示部 111 は、バッファ閾値制御部 109 からの MCR または ACR または PCR に変更する帯域指定指示を入力して別に入力するフレームパルスに従ってその帯域指定指示を全 ONT セル割当位置計算部 104 に出力する。

20

【0025】

図 3 は、本発明の動的帯域制御システムの動作を説明するためのタイムチャートである。図 3 を参照して、加入者端末 ONT 21, 22, 23 から受信したメッセージから閾値超過警報とエンブティ警報を検出した場合の動的なセル割当動作について説明する。メッセージ送受信部 5 がフレームパルス 1 の位置でメッセージを受信・終端してフレームパルス 2 の先頭でバッファ閾値検出部 108 に結果を出力する。

【0026】

図 4 は、バッファ閾値検出部 108 からの出力の具体例を示す表である。図 4 の項番 1, 2, 3 のパターンであれば、全 ONT セル割当位置計算部 104 にて再計算を行う。そして、再計算結果が、セルを増加する場合には、増加分のセル数が空きセル数保持部 107 から読み出した全 ONT での現在の未使用セル数以下であれば、フレームパルス 3 の先頭から全 ONT のセル割当を更新する動作を行う。具体的には、項番 1 のパタンのように前回エンブティ警報ありで今回警報なしであれば ACR を変更する。又、項番 2 のパタンのように前回警報なしで今回閾値超過警報ありであれば PCR を変更する。又、項番 3 のパタンのように前回警報なしで今回エンブティ警報ありであれば MCR を変更する。結果的に ONT からメッセージを受信してから最大で 2 フレーム分の時間遅延内で全 ONT のセル割当を更新する動作を行うことになるが、これは予めセル割当位置計算部 102 で個々の ONT の MCR, ACR, PCR に相当するセル割当を計算しておいて第一のメモリ 103 に保持させているからである。

30

【0027】

バッファ閾値検出部 108 からの出力結果が、図 4 の項番 4, 5, 6 のパターンであれば割当セル数の変更はないので、現状の設定通りの全 ONT のセル割当動作を行う。

40

【0028】

バッファ閾値検出部 108 からの出力結果が、図 4 の項番 7, 8 のパターンであれば、バッファ閾値検出部 108 にて前々回に閾値超過警報ありを検出する。前回は閾値超過警報なしを検出した場合またはエンブティ警報ありを検出した場合は、バッファ閾値制御部 109 から該当の ONT に対してフル閾値を ACR 以下の値に変更する制御を行うように OLT メッセージ送受信部 5 にバッファ閾値制御信号を出力する。その直後のフレームでバッファ閾値検出部 108 にて警報を検出しない場合は全 ONT セル割当位置計算部 104 にて ACR 相当のセル割当位置データを保持している第一のメモリ 103 から読み出し全 O

50

NTのセル割当を更新する再計算を行い、全ONTのセル割当を更新する動作を行うと共に該当のONTに対してフル閾値を元の値に戻す制御を行うようにOLTメッセージ送受信部5にバッファ閾値制御信号を出力する。

【0029】

図5は、制御端末31から帯域設定パラメータであるPCR, ACR, MCRの変更指示がある場合の動作のタイミング図である。すなわち、計算結果は計算終了後の直後のタイミングのセル割当パルスの先頭で反映される。このときはONTから発出される警報によるセル割当の更新動作は禁止される。

【0030】

以上、本発明の一つの実施形態について説明したが、本発明はこれに限らず、動的セル割当部のバッファ閾値制御部をプログラマブルにしてもよい。これによって、図4に示す以外の動的なセル割当を行わせる。

10

【0031】

又、フル閾値とエンブティ閾値を固定しておき別の閾値を可変にしてONTのバッファに蓄積されているATMセルの容量を監視してもよい。

【0032】

又、動的にセル割当を行わない場合には、動的セル割当部のバッファ閾値制御部に制御禁止指示を制御端末から入力するパスを追加するとよい。

【0033】

【発明の効果】

20

以上説明した本発明によれば、動的セル割当部にて予め個々の加入者端末ONTの最大割当セル数PCR, 平均割当セル数ACR, 最小割当セル数MCRに対応するセル割当位置を計算しておきメモリに保持しているため、1フレーム以内で全ONTのセル割当を計算することができる。従って、ONTからのバッファに関する警報を含むメッセージを局装置OLTにて受信してから最大で2フレーム以内に全ONTのセル割当を変更することができる。

【0034】

又、本発明によれば、動的セル割当部にてONTからのバッファに関する警報がないことを検出した場合に、このONTのバッファのフル閾値を制御し警報を監視することができるので、これまでのPCRに対応するセル割当からACRに対応するセル割当に変更でき、この余ったセルを他のONTに効率的に割り振ることもできる。

30

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の動的帯域制御システムのブロック図

【図2】動的セル割当て部のブロック図

【図3】動的セル割当て部の動作を説明するためのタイムチャート

【図4】動的帯域割当の具体例を示す表

【図5】帯域設定パラメータの変更がある場合の動作を説明するためのタイムチャート

【符号の説明】

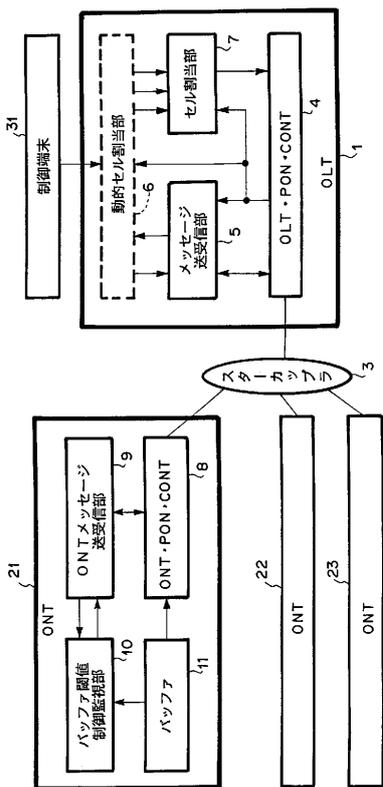
- 1 局装置(OLT)
- 3 スターカップラ
- 4 加入者局間制御部(OLT・PON・CONT)
- 5 メッセージ送受信部
- 6 動的セル割当部
- 7 セル割当部
- 8 加入者端末網制御部(ONT・PON・CONT)
- 9 ONTメッセージ送受信部
- 10 バッファ閾値制御監視部
- 11 バッファ
- 21, 22, 23 加入者端末(ONT)
- 31 制御端末

40

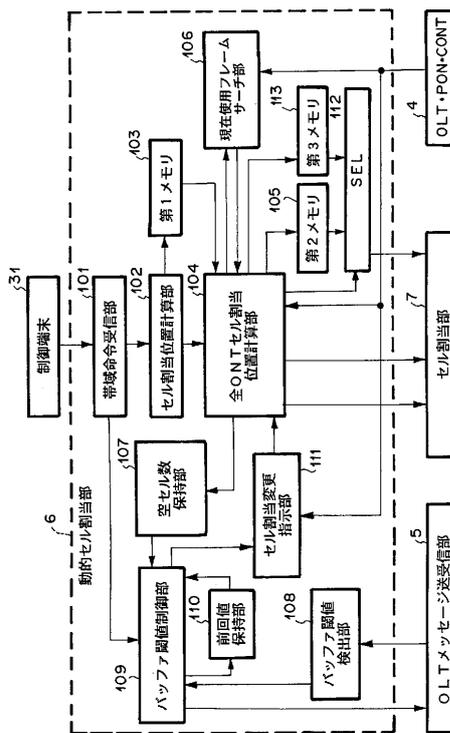
50

- 1 0 1 帯域命令受信部
- 1 0 2 セル割当位置計算部
- 1 0 3 第 1 メモリ
- 1 0 4 全 O N T セル割当位置計算部
- 1 0 5 第 2 メモリ
- 1 0 6 現在使用フレームリソース部
- 1 0 7 空セル数保持部
- 1 0 8 バッファ閾値検出部
- 1 0 9 バッファ閾値制御部
- 1 1 0 前回値保持部
- 1 1 1 セル割当変更指示部
- 1 1 2 S E L
- 1 1 3 第 3 メモリ

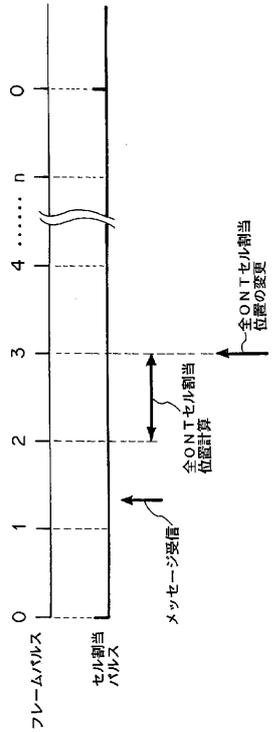
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】

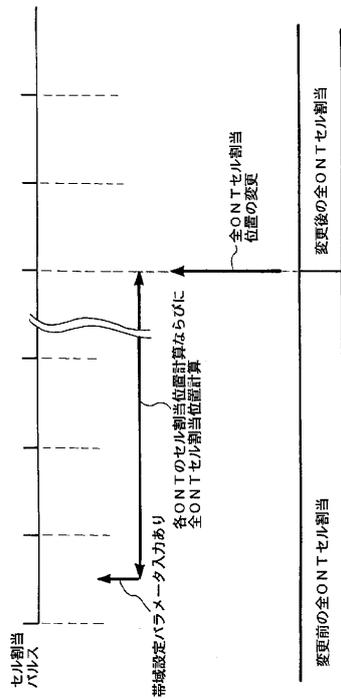


【 図 4 】

| 項番 | 前々回値 | 前回値 | 今回値 | 帯域指定指示 |
|----|----------|----------|----------|--------|
| 1 | - | エンティ警報あり | 警報なし | ACR |
| 2 | - | 警報なし | 閾値超過警報あり | PCR |
| 3 | - | 警報なし | エンティ警報あり | MCR |
| 4 | - | エンティ警報あり | エンティ警報あり | MCR |
| 5 | - | 警報なし | 警報なし | ACR |
| 6 | - | 閾値超過警報あり | 閾値超過警報あり | PCR |
| 7 | 閾値超過警報あり | 警報なし | 警報なし | ACR |
| 8 | 閾値超過警報あり | エンティ警報あり | 警報なし | ACR |

表中の“-”は計算要素として使用しないことを意味する。

【 図 5 】



フロントページの続き

合議体

審判長 武井 袈裟彦

審判官 望月 章俊

審判官 野元 久道

- (56)参考文献 特開平11-122279(JP,A)
特開平11-146000(JP,A)
特開平10-336188(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)

H04L 12/44

H04L 12/56